

商品市況展望

平成 25 年 3 月 31 日記

うろ覚えだが、吉野家の牛丼は並で確か 380 円。安全か、健康的かどうかは別にして、その値段でも十分にうまい。学生時代にバイトでお世話になった事もあり、たまに食べたくなる。

その吉野家の牛丼じゃなくても、今どきはワンコインで十分、ちゃんとそこそこの飯は喰える。昼飯に 1,000 円以上掛けるなんていうのは、贅沢の極みだ（笑）。一般サラリーマンの昼食代なんて、大体そんなものだろう。

だが一方で、カネは使おうと思えば幾らでも使える。ちょっと景気が上向き気味とはいえ、まだかつてのバブル時代みたいに銀座や六本木で札束をばらまく様な豪遊する人は“天然記念物”だろうが（昔、顧客に奢られてその豪遊に付き合ったが、その人は一晩に 250 万円を使った。なんとクレイジーな時代だった事よ！）、それでもちょっとした名店で晩飯を喰えば、5 万や 10 万円を使うのはわけない話だろう。

だが幾らかネがあったとしても、毎日毎日 10 万円、月に 300 万円も食べ物に使えるかといえは、やはり外食だと飽きるだろうから、ちょっと無理だろう。可能なのかもしれないが、当方にはちょっと想像がつかん。普通は贅沢な食事が続けば、日本人だけに梅干しや魚の干物、味噌汁とご飯の定番日本食が欲しくなるはず。

もっともそれらの定番日本食だって、高級品をお取り寄せすれば、梅干し 1 個 500 円、魚の干物 1 枚 2,000 円、味噌や豆腐、コメも天日ぼしのコシヒカリとかこだわれば、吉野家の牛丼の 10 日分くらいは一食で簡単に吹っ飛ぶ。“美味しんぼ”の魯山人の世界だな。

そうは言っても、そういう風に使うカネにはやはり限界がある。“飲む・打つ・買う”の“打つ・買う”を除くと、おそらく幾ら使ったって毎日 100 万円は使えない。“飲む”だけでは、身体を壊して終了だ。

だから金持ちは“打つ・買う”をしないとカネがなくならないわけだが、豪邸を建てて、高級車を何台も買ったりすれば、そりゃもう何億でも使えるだろう。だが人はその贅沢の極みを実行すれば、さて一生の内に最大で幾ら使えるのだろうか？ 100 億？ 200 億？

サラリーマンの一生の稼ぎは、2 億円とか 3 億円とか言うんだっけな。それでこういう生活は不可能に決まっているし、もちろん当方も「幾ら使えるのか？」の心配は、まだまだ掛かるこどもの学費の算段に忙しいわけで、反対の意味になっているわけだが（笑）、世界の投機マネーっていうのは、ちょっと想像を絶する凄まじい事となっている。

現在、全世界の「実体経済」の規模は GDP 総額で推定 5000 兆円。だが「投機経済」の規模は、一説には「投機マネー」約 1 京 5000 兆円＋「金融デリバティブ」約 6 京円＝約 7 京 5000 兆円と言われている。すなわち、実体のない「投機経済」が「実体経済」の 15 倍まで膨張しているわけだ。

博打のカネなんていうのは、カジノのチップと同じでリアルマネーなのかどうかも判らんわけだが、

- 実体経済より膨れ上がったカネがうごめく現在の金融市場は、果たしてまともなんだろうか？
- マネーが「物品+サービス+資産」の合計であると仮定した場合、そのマネーは本当に何かを買える価値があるのだろうか？
- 世界中の物を全部買って余るんじゃないだろうか？ では、それは本当にマネーなのか？
- 世界の金融資産は、ほんの数%の人々に集中している状況で、彼らはそのカネを実態経済の中で使い切れるのだろうか？
- 使い切れないカネなら、それはカネなのか？ それともただの権力なのか？
そういう風な疑問が、次々と湧き上がってくるわけだ。

そんな中で、キプロスはロシアンマフィアのカネに 25%の課税をする事にしたわけだが、早速続いて今度はスロベニアがそうなる市場で懸念されている。

経済学者ではない当方にはうまく説明は付けられないが、結局のところこういう問題が次々と出てくるのは、根本に「**実体経済以上に大きくなってしまった投機マネーは、一体何の役に立つのか？**」、「**実際には使い切れないほどのマネーを持つだけの人々が、世界の支配者ヅラするのは、果たして良いことなのか？**」、「**カネは便利に使ってなんぼのもので、カネに使われる今の市場経済はおかしいんじゃないのか？**」という事ではないかと思う。

キプロスで銀行員が「職場を守れ！」とデモをするのも自由だが、元々金融業が国の主要産業であるシステムになってしまっていること自体、完全に“カネの奴隷”になってしまっているような悲哀を感じるのは、果たして当方だけ？

金融立国なんていうのは、単なる幻想で、カネ自体は何も生み出さない！

日本・大阪堂島でコメ先物市場が世界に先駆けて始まったのは、それが生産・流通に寄与するものだったからだ。よって投機・ヘッジは悪ではないが、実体経済よりも大きくなってはいけない！

まあ、そんな事を考えながらも相場世界に身を置き続けているのは、500 円の何が入っているのか判らないランチより、1 個 500 円の梅干しを「すごいだろ！」と言いながら喰う身分になりたいと思っているからだ。我ながら一貫性の欠片もなく、喰いもんには卑しいわけだ（笑）

〔貴金属〕

○東京金日足
…削除済み…

今週の金の値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月25日	¥4,908	-6	¥4,922	-9
3月26日	¥4,852	-56	¥4,874	-48
3月27日	¥4,869	17	¥4,887	13
3月28日	¥4,864	-5	¥4,881	-6
3月29日	¥4,832	-32	¥4,849	-32

金相場は、先週号においては『円安での急騰相場、ドルベースでの急落を経てもみ合い相場に移行した相場が立ち直るとした場合、まずはドルベースの反騰がきっかけとなるだろう。それは1620ドルをオーバーした場合に起きると思わる。買いトレンドの発生はそこからで、それまではもみ合い継続であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY金の伸び悩み&円安の一服が重なり、再び4,800円台半ばまで下落。安値は週末に4,842円までであった。

キプロスショック後に記録した4,858円(3/18)→戻り高値の4,979円(3/21)まで戻っていた相場だが、今週はその安値を割り込む下落である。チャートの格好としては、あまり良くない姿であり、短期的にはWトップを打ったような形である。

もしも戻りの倍返しの下げならば、121円戻したのだから、 $4,858円 - 121円 = 4,737円$ が目標値となるが、さて？

いずれにせよ、為替相場は現在、レンジ相場に入ってしまったわけで、またNY金も1620ドルオーバーは実現していない。よって買える相場ではないという見方なのだが、かと言って積極的に売りで取れる相場とも思えないので、しばらくは様子見しかあるまい。何かが出るまでは、じっとチャンスを伺う態勢が良いだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥5,069	2月7日	¥3,886	6月4日	¥4,832
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥5,068	2月7日	¥3,940	7月24日	¥4,833
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥4,166	9月3日	¥4,834
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥4,330	11月6日	¥4,840
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥4,502	12月25日	¥4,844
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥4,683	3月4日	¥4,849

○NY金日足
…削除済み…

週末3/29のNY市場は、グッドフライデーでの休場。

チャートでは、1554.3 ドル (2/21) と 1560.4 ドル (3/8) で W 底形成の格好に見えるが、一方で上値も 1619.7 ドル (2/26) と 1616.5 ドル (3/21) で W トップと言えなくもない。

ともかく 1620 ドルが明確な上値抵抗線であるため、これを超えないと買いトレンドの発生にならない。…中略…

なお IMF の統計によると、ロシアの 2 月末の金準備は前月末比 6.998 トン増の 976.952 トンとなった。また、トルコの 2 月末の金準備が前月末比 5.574 トン増の 375.731 トンとなったほか、カザフスタンやベラルーシ、キルギス、ウクライナなども 2 月に金準備を増やしたことが判明。またすでに韓国中銀は金準備を 2 月に約 20 トン積み増したことを公表している。

このように、**金の買い手は現在、各国の中央銀行である**。特に新興国が買っている状況だ。だがこれが直接、相場に影響を与えるのかどうかはまだ不明。

また CFTC 発表の 3/26 現在のファンドのポジションは、…中略…

3/28 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、完全に伸び悩みの相場となっている。まだ買いトレンドは発生していないが、かと言って積極的に売る相場とも思えないため、しばらくは様子見である。4 月相場で変化が出るのかどうか？

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月25日	¥4,843	5	¥4,883	3
3月26日	¥4,780	-63	¥4,827	-56
3月27日	¥4,810	30	¥4,845	18
3月28日	¥4,815	5	¥4,850	5
3月29日	¥4,796	-19	¥4,825	-25

プラチナ相場は、先週号においては『上値抵抗線 5,052 円、下値抵抗線 4,704 円のどちらに抜けるかの相場である。インパクトのある材料が出ないと、この範囲での逆張り・もみ合いの相場となるか』とコメントした。

今週の相場展開は、軟調な展開での下値もみ合いとなり、4,800 円台前半での推移となった。

キプロスショックによる急落後に記録した 4,781 円 (3/21) は更新していないものの、上に行く勢いも感じられない。

先週号でもコメントしたが、「上値抵抗線 5,052 円、下値抵抗線 4,704 円のどちらに抜けるかであり、抜く力が無いならば(新たな材料が出ないならば)しばらくはこの 350 円幅の中でのもみ合いか」とした動きは、まだ続きそうな気配である。円安が進行するか、あるいはプラチナ自体に何らかの強材料が出ない限りは、むしろこの中での下値を試す展開かもしれない。

今のところ、そのプラチナ独自の材料としては、

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥5,255	2月7日	¥3,466	7月24日	¥4,796
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥5,267	2月7日	¥3,460	7月24日	¥4,797
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,794
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,805
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,236	12月25日	¥4,817
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,704	3月4日	¥4,825

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,825 円 (プラチナ) - 4,849 円 (金) = -24 円。

286 円 (2/14) → -59 円 (3/19) まで詰まり、一目均衡表の雲の下に出てもみ合いである。今後、完全にプラスに転じてくる様であれば、この -59 円が底と判断できるだろうが、現状ではまだ何とも言えない。割り込むようなら、-150 円超まではプラチナの割安が進むのではなか

ろうか？

いずれにせよ、新年度の動きを見ないと判断は付けづらいか。

プラチナが大きく買われる事になるかもしれない材料としては、前述の「**ロシアと南アが白金族金属の輸出を調整するため、OPECのような組織の創設を計画中**」というものがあるわけだが、そういう事態になったらそれこそ暴騰するのだろう。

しかし具体案の続報がなければ、むしろ今は「**欧州債務不安の再燃などのちょっとしたキッカケで嫌気売りを浴びる可能性も**」あるわけであり、突っ込んだ場面の買いはともかくとして、まだそれだけで安易には買いたくない気分だ。

結論として当方の相場観は、4,700 円台に突っ込んだ場面は捨っても面白いと思うが、更に下げて4,700 円を割り込むようなら、4,400 円台までの下げも考えておいた方が良さだろう。現状では、何らかの強烈な買い材料が出なければ、5,000 円台の回復は厳しいだろうと見る。

[穀物]

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	5月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
3月25日	¥35,100	100	¥27,290	-30
3月26日	¥35,000	-100	¥27,420	130
3月27日	¥35,000	0	¥27,510	90
3月28日	¥34,690	-310	¥27,440	-70
3月29日	¥32,710	-1980	¥26,170	-1270

まずはコーンから…

先週号においては『シカゴではファンド資金が大量に流入中。週末の米農務省発表～本格的な天候相場期への突入であり、ホットな展開が予想されるだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、28日の米農務省報告を受けて、内外とも暴落。東京もシカゴも、ひと月掛けて上がった分を一日で消してしまう展開となった。

27,790円(3/21)まで上昇した後に下落し、今週は発表までは小戻ししていたわけであるが、29日は大暴落で26,120円の安値まで記録だ。

売られた原因は3/1現在の四半期在庫の予想外の増加であり、そのために旧穀は7月限の2,160円安を筆頭に、新穀以上の下げとなっている。

チャートでは、26,080円(2/27)→27,790円(3/21)までひと月掛けて上昇した1,710円分のほとんどを、この週末の一発の下げで帳消しにしたわけである。

さて米農務省報告の内容である。

作付意向面積 **9728万Ac** (事前予想 9730万Ac) 昨年実績 9720万Ac

3/1現在在庫 **53億9894万Bu** (同50億3000万Bu) 去年同期 60億2300万Bu

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥35,400	3月22日	¥21,040	6月4日	¥32,710
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥34,400	3月22日	¥21,490	6月18日	¥31,900
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥30,090	3月28日	¥25,510	10月1日	¥27,870
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥27,970	2月6日	¥24,420	11月14日	¥25,860
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,170	2月5日	¥24,930	12月21日	¥25,840
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥27,790	3月21日	¥26,080	2月27日	¥26,170

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 3/29 のシカゴ市場は、グッドフライデー休日。前日は 5 月限で 40.00 セント安の 695.25 セント。12 月限では 32.50 セント安の 538.50 セントだった。

シカゴの期近は 680 セントが一つの節のチャートであるが、新穀はすでにこれよりも遥か下の 530 セント台である。「ここから更に下げて、一体幾らあるの?」というのが、当方の基本的な考え方だ。

また CFTC 発表の 3/26 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、米農務省報告で大暴落した相場であるが、作付面積は予想外に増加せず、ここからは買いたろうとの判断である。懸念は、ファンドの大量買いのみ。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	4月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
3月25日	¥65,100	100	¥52,730	-300
3月26日	¥64,810	-290	¥52,340	-390
3月27日	¥65,200	390	¥52,750	410
3月28日	¥65,150	-50	¥52,300	-450
3月29日	¥64,990	-160	¥51,700	-600

続いて一般大豆です…

先週号においては『週末の米農務省報告に注目である。いずれにせよ、弱材料が多い中で既に大きく逆ザヤに売られている相場であり、弱材料織り込み済みからの天候相場期入りに期待をしたい。当面は突っ込み買い方針の継続である』とコメントした。

今週の相場展開は、軟調な展開が続く中で米農務省発表後は急落。安値は 51,400 円 (3/29) まで下げたが、当先の下げ幅は限定的だった。この表では判らないが、2 番限の 6 月きりは週末に 1590 円安と大きく下げている。

コーンと同様に週末は暴落だったが、…中略…

さて米農務省報告の内容である。

作付意向面積 7713 万 Ac (事前予想 7850 万 Ac) 昨年実績 7720 万 Ac

3/1 現在在庫 9 億 9928 万 Bu (同 9 億 4700 万 Bu) 昨年 13 億 7400 万 Bu

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 4 月	¥45,350	4 月 16 日	¥65,450	3 月 21 日	¥41,750	6 月 4 日	¥64,990
2013 年 6 月	¥44,700	6 月 18 日	¥60,090	3 月 13 日	¥44,400	6 月 18 日	¥55,010
2013 年 8 月	¥48,020	8 月 16 日	¥60,100	3 月 12 日	¥47,500	11 月 13 日	¥55,500
2013 年 10 月	¥47,220	10 月 16 日	¥60,000	3 月 12 日	¥46,920	10 月 16 日	¥56,800
2013 年 12 月	¥50,680	12 月 17 日	¥55,450	2 月 6 日	¥48,450	1 月 9 日	¥51,630
2014 年 2 月	¥53,000	2 月 18 日	¥53,850	3 月 12 日	¥50,150	2 月 28 日	¥51,700

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末 3/29 のシカゴ市場は、グッドフライデー休日。前日は 5 月限で 49.00 セント安の 1404.75 セント。11 月限では 26.75 セント安の 1251.50 セントだった。

農務省報告日に暴落はしたものの、まだ 14 ドル台は維持。新穀はどうせ元々 12 ドル台だったわけで、「ここから更に下げて、一体幾らあるの?」というのが、当方の基本的な考え方だ。

また CFTC 発表の 3/26 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、週末に先物が中物くらいに暴落してくれていれば拾いたかったが、いずれにせよこの米農務省報告の内容で暴落するのは、ちょっと不自然だろう。今後も突っ込みを買い狙う方針である。

[ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

今週のゴムの値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
3月25日	263.1	-0.8	279.4	0.9
	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
3月26日	263.5	-2.8	279.4	
3月27日	267.4	3.9	282.7	3.3
3月28日	260.4	-7.0	274.9	-7.8
3月29日	260.8	0.4	274.0	-0.9

先週号においては『戻り売りではあろうが、ゴムだけに安値を叩くと急反発して顎を刺されるだろう。よって突っ込みは着実に利食い先行とし、戻りだけを売るのがベターだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末2日間で大きく下げた相場が、**270.1円(3/29)**まで下落。28日の大下げはゴムのみであったし、週末は全体が下げる中で、逆に安値からは戻しての終了である。

今週はまだ3/18に記録した**269.5円**は割り込んでおらず(とは言うものの、実際にはこれを記録した8月限は、268.0円を記録と一代安値の更新であるが)、チャートはここで踏みとどまればW底の可能性もある。

ただしそのためには、今後明確な戻り相場に移る必要があるわけで、現状でそこまでの力があるかどうかは不明。しばらくは戻り売りを念頭に置くのがベターであろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	253.5	9月25日	316.6	2月6日	240.0	11月12日	263.1
2013年4月	262.1	10月26日	323.9	2月6日	241.8	11月12日	260.8
2013年5月	259.7	11月27日	329.0	2月6日	245.6	11月29日	263.3
2013年6月	286.0	12月21日	334.1	2月4日	264.0	3月29日	266.2
2013年7月	316.3	1月28日	337.8	2月6日	266.0	3月29日	269.3
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	268.0	3月29日	270.9
2013年9月	279.5	3月26日	284.0	3月27日	270.1	3月29日	274.0

当先のサヤは、4月限260.8円～9月限274.0円と**13.2円**の順ザヤ。順ザヤ幅は変わらず。なお3月限は、263.1円で納会である。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、3/10 現在で 1,250 トン増の 12,553 トン。6 旬連続の増加であり、国内在庫は増加中。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、21,000 元台の安値まで記録。まだ下げ止まりの兆候はない。

タイ政府は今週、3 月で終了を予定しているゴムの輸出制限措置の 2 ヶ月間の延期を発表。インドネシア、マレーシアがこれに同調する動きは今のところなく、これについて 3 ヶ国は 4 月 10 日から会合を開くとしている。

単独介入では効果は限定的だろうから、4/10 以降の動きに注目か。しかし、それまでは少なくともまだ買えないという事だろう。

結論として当方の相場観は、戻り場面はまだ売られると思われ、底入れにはまだ時間が掛かるのではあるまいか。在庫が積み上がっている中で、タイの単独介入だけでは効果は薄いだろう。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週号においては『どちらかと言えば、押し目買いから戻り売りに変化していると考える。早晚、63,690 円の戻り高値を取れなければ、それが明白となるのではあるまいか』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は大きく舞い上がり、97 ドル台まで上昇。5 本連続の陽線立ちであり、94 ドルを超えたところから舞い上がった格好だ。

98.24 ドル (1/30) → 89.33 ドル (3/4) まで 8.91 ドル下げた相場は、92~94 ドルでのみみ合いを経て、再び高値圏へと舞い上がった。

この上昇の要因は、…中略…

なおロンドンブレントは 110 ドル台、ドバイ原油も 107 ドル台まで上昇しているが、97 ドル台の NY 原油はサヤを詰めて来ている。これは現在、米国が一人勝ちの経済情勢となってきたための現象と思われ、この情勢が続くのなら更にサヤ寄せするかも。

また 3/19 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	3 月限(当限)	前日比	8 月限(先限)	前日比
3 月 25 日	¥62,950	50	¥61,380	340
3 月 26 日	¥62,800	-150	¥61,040	-340
3 月 27 日	¥63,090	290	¥62,170	1130
3 月 28 日	¥62,980	-110	¥62,270	100
3 月 29 日	¥62,930	-50	¥62,420	150

今週の相場展開は、東京原油は 62,000 円台を回復。

NY 原油の上昇の割には、まだ上げに勢いは感じられず、上値抵抗線の 63,690 円は突破していない。というか、まだ全然それにトライする勢いも感じられない。これは結局、為替の円安が小休止しているためと、NY 原油の上昇に国内筋は疑心暗鬼だという事なのだろう。

チャートでは、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 3 月	¥52,040	10 月 1 日	¥67,510	2 月 13 日	¥50,610	11 月 12 日	¥62,930
2013 年 4 月	¥51,740	11 月 1 日	¥67,320	2 月 13 日	¥50,390	11 月 12 日	¥93,580

						日	
2013年5月	¥54,860	12月3日	¥66,830	2月12日	¥52,370	12月11日	¥63,270
2013年6月	¥58,080	1月4日	¥66,690	2月13日	¥57,320	1月8日	¥62,860
2013年7月	¥62,910	2月1日	¥66,460	2月13日	¥60,070	3月4日	¥62,630
2013年8月	¥60,560	3月1日	¥63,690	3月13日	¥59,810	3月4日	¥62,420

上値抵抗線は 63,690 円であり、下値抵抗線は 59,810 円と、要は 8 月限の一代足がどちらに抜けるのかが焦点だろう。

今は上値抵抗線の方に近いところまで上がっているが、寸前で止まっての暴落だって有り得るからねえ。

結論として当方の相場観は、NY 原由の急反騰の割には、東京市場は鈍感な動きである。これが意味するところは何なのかを良く考え、次の一手を模索するのが良いだろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
3月25日	¥76,360	-300	¥76,020	0
	5月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
3月26日	¥76,200	-460	¥74,670	
3月27日	¥77,210	1010	¥75,830	1160
3月28日	¥77,380	170	¥75,990	160
3月29日	¥77,640	260	¥76,220	230

続いてガソリンです…

先週号においては『79,000円台で2番天井を打った相場であろう。戻り売り対処で、もう一度73,000円台を探りに行く展開と見る』とコメントした。

今週の相場展開は、27日には大きく上げたが、その後の値動きは小幅なものに留まった。

先週号で「結果として相場は77,000円を再び割ったわけだ。これで82,000円天井、79,590円が2番天井となっただろう」としたわけだが、26日に発会した10月限は若干逆ザヤでの動きとなり、74,410円(3/26)まで記録した後、76,000円台まで戻している。

73,260円(3/1)が底で、74,410円が2番底なのだろうか？ 現状では、もう少し見ないとはっきりしないと思われるが、相場だけに上下を決めつけず、今後の動きに注目したい。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥63,400	9月26日	¥82,550	2月13日	¥62,560	11月6日	¥76,360
2013年5月	¥65,180	10月26日	¥82,380	2月13日	¥62,490	11月6日	¥77,640
2013年6月	¥67,980	11月26日	¥82,250	2月12日	¥66,480	12月10日	¥77,500
2013年7月	¥69,810	12月26日	¥82,280	2月13日	¥69,640	12月26日	¥77,470
2013年8月	¥76,550	1月28日	¥82,250	2月13日	¥73,720	3月1日	¥77,360
2013年9月	¥78,930	2月26日	¥79,590	3月12日	¥73,260	3月1日	¥76,860
2013年10月	¥74,630	3月26日	¥76,320	3月29日	¥74,410	3月26日	¥76,220

3/29 現在の業者間転売価格は、…中略…

3/23 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、スポット相場から考えても、現在の値位置は居心地の良い水準なのだろう。これが今後どちらに向かうか、原油相場の動向や為替の動向に注目しながら、しばらく様子見としたい。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	4月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
3月25日	¥71,890	240	¥73,810	180
	5月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
3月26日	¥71,770	-480	¥74,220	
3月27日	¥72,690	920	¥75,160	940
3月28日	¥72,590	-100	¥75,200	40
3月29日	¥72,580	-10	¥75,580	380

最後に灯油です…

先週号においては『76,870円で2番天井を打った相場だろう。戻り売りのスタンスで、再度の71,000円台突入を狙うのが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油が反騰に転じた事から戻りに入り、小幅ながら5連続の陽線を入れ、75,000円台半ばまで戻す格好となった。

先週号において「結果として74,000円を割り込んだ事で、76,870円(3/11)は2番天井だったと言えるだろう。結論から先に言えば、これで逆張りではあるが、戻り売り相場ということが決定したか。もう一度71000円台を試しに行くのが自然だろうと見ている」としたが、相場はその74,000円割れで下げ止まり、小幅に戻したわけだ。

まだ上値抵抗線の76,870円(3/11)は抜けておらず、また下値抵抗線の71,500円(3/1)にも遠くなった事で、相場の方向感はまた難しくなった。ハッキリするまでは、手出し無用か。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年4月	¥64,320	9月26日	¥81,700	2月12日	¥62,960	11月6日	¥71,890
2013年5月	¥64,410	10月26日	¥81,240	2月12日	¥62,530	11月6日	¥72,580
2013年6月	¥67,680	11月26日	¥81,460	2月12日	¥64,690	12月11日	¥73,130
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥81,700	2月12日	¥68,040	12月26日	¥73,670
2013年8月	¥74,200	1月28日	¥82,030	2月12日	¥71,080	3月1日	¥74,140
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥76,980	2月26日	¥71,500	3月1日	¥74,820
2013年10月	¥74,090	3月26日	¥75,660	3月28日	¥74,000	3月26日	¥75,580

相場は順ザヤであるが、これは季節習性からは当然の事だろう。

3/29 現在の業者間転売価格は、…中略…

3/23 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、NY原油高の影響で下げ止まり、反発に転じてきた相場である。だがこのまま大きく上がってゆくのかどうかはまだ疑問があるため、しばらくはポジションを消して様子見としたいところ。

[為替]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

96.71 円 (3/12) まで円安が進行した後、現在は 94 円どころで横ばいである。

しかしもうすでに 78 円→96 円まで 18 円も円安となったわけで、時間調整を入れないと他国の批判も強まるゆえ、当然の動きかもしれない。いずれ 100 円、120 円と円安になるとの当方の相場観には、まだ変化はないわけだが。

なお来週の主な予定は、…中略…

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

127.69 円 (2/6) →118.70 円 (2/25) までの調整後に、**126.02 円 (3/12)** まで再び円安へ。

その後また円高となった相場は、**現在 120 円前後での動き**となっている。

円安が進んだ後の押し目底である **118.70 円は重要なポイント**であり、…中略…

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

ユーロの弱さは、このユーロ/ドル相場のチャートに端的に現れている。チャーとでは、あつという間に昨年 11 月の水準までドル高が接近しているわけだ。

…中略…

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com